

第V章 コアSSHの事業（一宮高校実施分）

1 尾張・知多地域連携SSH文化講演会 「文武両道の才能を育み勝負に強くなる」

(1) 仮説

自らの脳がどのような特性を持っており、どのようにしたら自身のパフォーマンスを最大に引き出すことができるのか。このような脳の機能に関する最近の知見を学び、参加者が、自身の生活を振り返り今後の活動を考え直す材料とすることが本事業の最大の目的である。

(2) 方法

ア 地域（または県下）の理科教育における位置づけと狙い

この事業には、卓越した業績を残した科学者による講演会を実施して地域の科学に対する意識の向上に役立てようとするねらいがある。また、一宮市内の中学校の代表者や地域の高等学校の希望教員に参加してもらうことで、一宮高校 SSH を広く理解していただくことも目的としている。

イ 連携先・対象と規模

連携先：日本大学大学院総合科学研究科生命科学専攻 教授 林 成之先生

対象と規模：愛知県立一宮高等学校（生徒 1065名、教員 70名、保護者 106名）、一宮市内の中学校代表の生徒33名と教員18名、尾張・知多地区の高等学校の希望教員 1名

ウ 内容

(7) 事業の概要と現状の分析

講演「文武両道の才能を育み勝負に強くなる」

林成之先生は脳外科医の第一人者で、日大板橋病院に、患者のためにできることは全て行うという理念で救急医療体制を作ってもらった。先生がそこで開発された脳低体温治療法は、それまでは助からなかった重症患者が次々と社会復帰をするといった、革命的な治療法として世界的に評価されている。また、近年は、脳医学者の立場から、北京オリンピック日本競泳チームやバンクーバー冬季オリンピック日本選手団に脳トレーニングを実施し、その成果は北島康介選手の金メダル等として結実している。本講演会では、力を出し惜しまずに多方面で実力を出し切るためには、脳の機能を生かして、普段からどのような考え方や姿勢で生活すべきかについてご講演をいただいた。

(4) 事業の取り組み

a 実施日時

10月4日（月）

b 場所

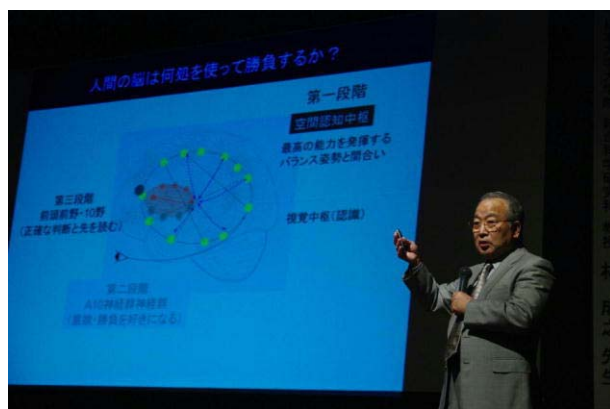
一宮市民会館 大ホール、第3、4会議室

c 注意・工夫した点

できるだけ多くの質問を受けられるように質問の時間を多めに設定した（30分）。また、さらに質問したい生徒があれば、別室で質問ができるように配慮した。

(3) 検証

生徒の自己のパフォーマンスを上げたいという要求は大変に大きく、講演会後は質問が途切れず、講師が講演会場を出るまで質問は続いた。しかし、運動系部活動の代表からは、自分たちのトレーニングの方法について質問したかったのにできずに残念であったとの感想を聞き、そうした質問を予想して、質問を整理しながら会を進行すべきであったと反省している。



講演会の様子



講演会後の質問の様子